

お寺とNPOから生まれた、新しい市民財団

ー 財団設立までの 35年と、その先にある未来 ー

1. リタ市民アセット財団の設立まで

- ・ お寺の住職、さまざまな社会活動をしているNPOや個人など
たくさんの方々による 財団設立のストーリーは、



35年前まで さかのぼります

! 若き日の 大河内秀人住職は、あることに気づきました

大河内秀人住職のお話 その1

- 20代で僧籍をとり家業のお坊さんになるが、お寺だけでは生計がたたないため
仏教関連の団体に就職
- 就職先の仕事で、NGOというものを体験する
仏教青年会のユニセフ募金で、ブータンの子どもの命を守る活動支援
カンボジアの視察で、JVC（日本国際ボランティアセンター）を知る

仏教とNGOってどこか似たところがあるなあ
自分も、日本でNGOに参加しよう！

～それが後の財団設立の切っ掛けでした～



大河内秀人住職のお話 その2

- ・ 家のお寺（江戸川区、文京区）を、若くして継ぐことになった
- ・ 寺院経営のために、江戸川区の「寿光院」が貸している貸地の整理をはじめ

でも不動産屋じゃないんだし、お寺の役割って何だろう？

- ・ 少しずつ契約形態を変え、お寺自身が使える土地にして寺院経営を改善！
- ・ 土地・建物の一部を、市民の社会貢献活動に使ってもらおうと考えた

人に役立つことが、本来のお寺の姿だよなあ

1990年「小松川市民ファーム」というコンセプトを考える

- ・単に市民活動団体に貸すということではなく、市民活動を育てていくファーム（農場）として、市民が主体となって社会を変える場として、江戸川区のマンションの一画を **小松川市民ファーム** と名付ける

「シェア＝国際保健協力市民の会」へ
活動場所を提供（第1号）

※その時にご相談した本田徹医師が財団の評議員になってくださいました！



“いのちを守る人を育てる” 保健医療支援

・35年のあいだに分野を超えた市民団体が活用し、育っていった 未来バンク

NPO 法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

市民外交センター

NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム

江戸川子どもおんぶず

NPO法人ジュレー・ラダック

子ども文化NPO 江戸川子ども劇場 などなど



大河内秀人住職のお話 その3

- ・支援や活動をしているうちに、いろいろな仲間がではじめる

(田中優さん/未来バンク、上村英明さん/市民外交センター、藤居阿紀子さん/生活者ネットワーク などなど)

- ◎ 1998年「江戸川NGO大学」を、つながりのできた仲間とスタート

第1回のテーマは、「50 周年を迎える世界人権宣言」

- ◎ 関係者が多忙となる2010年まで、多くの企画を開催してきた

専門性やテーマが違って、「市民社会の担い手」として
志を共有できる、団体や人のネットワークができた！



- 江戸川INGO大学のネットワークは、その後も長く活かされ続けている

「江戸川子どもおんぶず」と「足温ネット」が協働して
 国連での議論を、地域で分野横断的に考えるため
 「気候変動と子どもの参画」をテーマにした企画を
 2023年子どもの権利フォーラムなどで開催！



お寺のアセットの社会活用は、江戸川区に広がっていった

- ・ 小松川市民ファームに続いて、様々な市民活動団体などへ、借地、賃貸、無償貸与などのかたちでアセットを提供しはじめる



高齢者グループ・ハウス「ほっと館」



地域の活動場所/オフグリッドハウス「松江の家」

- ・ それらのアセットは、高齢者、子どもの居場所、就労移行支援、難民、障がい者、環境問題、など幅広い支援に活用されている



放課後デイサービス「ばんびーのEST」



ほっと館の屋上の市民立発電所

活動は、文京区や世界へ広がっていった

- ・ 文京区にあるお寺「見樹院」でも、寺院の一部を公益活動のために活用するようになっていった
- ・ 現在では、関係団体のいくつものが世界でも活動を行っている



おもてまちおもてなし食堂 (「文社協だより」より)



NPO 法人ジュレー・ラダック

ここまでは、大河内住職の視点ですが

活動の発展には別の背景もありました

財団設立に影響を与えた、主な背景

背景1) NPO法の成立と、それによる「市民が公益活動/事業を行う」ことの広がり

- ・ 市民主体の立法運動によって1998年に施行されたNPO法（特定非営利活動促進法）は市民団体が簡易に法人格を取得、「国だけではなく市民も公(おおやけ)を担う」社会変化などいまの「市民社会」の基盤をつくり、その後の公益法人の在り方も大きく変えました。
- ・ NPO法は多くの人の努力でつくれ、その関係者もこの活動に深くかかわっています。

背景2) 環境や人権などの分野で、日本のNPOやNGOが世界の動きと関係しはじめる

- ・ 地域社会で活動が完結するのではなく、世界の中で考え、良い変化をもたらそうという動きが国際貢献（医療、交流）、環境（自然エネルギー、開発）、人権などの分野で発達しそれらの団体が、地域社会と国連などの両面を見た活動を始めました。
- ・ 「世界人権宣言」などを基本とした 地域と世界を同時に考える人々がこの活動に参加しています。

背景3) 生活クラブ生協の側面支援による、地域での新たな女性活動・社会事業の広がり

- ・生活クラブ生協に参加していた（主に）主婦の方たちが、地域の生活に必要な機能を創り出し高齢者、障がい者、子ども、環境などの分野で、複数の新たな社会的事業を行っていました。
- ・江戸川区で、寺院のアセットを地域社会の中で公益のために活用する主要メンバーとなりました。

背景4) 分野と背景を超えた市民活動による、相互の学びと緩やかなネットワークの形成

- ・江戸川区職員の学習会（グループKIKIに発展）、小松川市民ファーム使用団体、地域団体、志ある個人などによる人的ネットワークができていきました。

背景5) 市民金融、自然エネルギー、市民外交、子どもの人権など、先鋭的な活動の創出

- ・江戸川区の活動から、日本社会全体を牽引する新しい市民活動の動きが複数生まれてきました。（市民による非営利金融「NPOバンク」、市民による外交、地域エネルギーの開発、などなど）

大河内秀人住職のお話 その4

- ・ 気が付いたら、アセットを提供してから30年以上・・・

いつの間にかアセットを活用した団体などが発展して、
地域の中に「豊かな市民社会」ができていた！



- ・ でも昨今のお寺を取り巻く状況は厳しく、このままだと継続はむずかしい
これまでの蓄積や、現状を持続可能にするには、どうすればいいんだろう

💡 今まで一緒に活動してきたみんなに相談しよう！

2022年 新プロジェクトがスタート

- ・この蓄積を将来に残すことを目的に、新しいプロジェクトがスタート
(財)庭野平和財団も、応援してくれることになった！

◆プロジェクトメンバー；

井筒千春（デザイナー）

奈良由貴（足温ネット）

青木沙織（江戸川子どもおんぶず）

奥田裕之（未来バンク）

小池達也（よだか総合研究所）



青木 沙織



井筒 千春



奥田 裕之



奈良 由貴



小池 達也

PJで30年の歴史を調べると、誰も意図しないうちに独自の「コモンズ」が出来ていた。
他を探したが、日本社会や仏教界で似た取り組みは見当たらない。

江戸川区で多くの人たちが進めてきた取り組みを「社会の仕組み」に
新しく作り替えることで、蓄積や現状を未来に残していこう！

一方、「お寺」から「社会」へ仕組みを移すために適した法制度を調べたところ、
「公益」について国会でも少し似た議論が進んでいた。

◆ 公益法人制度（2025年4月）、公益信託（2026年4月）が改正されることが決定
⇒ 新しい資本主義が目指す「民間も公益役割りを担う社会」の実現に貢献

公益活動に税優遇が使える、公益信託を受ける可能性も持つ

新しい制度の「公益財団法人」をつくろう！

⇒ リタ市民アセット財団の設立を決定



新財団の目標

- ① みんなで進めてきた活動を財団法人にまとめ、これから100年間
続く「新しい助け合いのしくみ」をつくろう
 - ② 未来のために「志」のある土地・建物、資産を財団が預かり、永く
社会貢献に活用していこう
 - ③ 公益のために預かった土地・建物やお金は、市民がみんなで
活用方法を話し合って、NPOなどの社会公益活動に活かしてもらおう
- これって、これからの新しい社会の姿かもしれない！

2024年11月11日 一般財団法人 リタ市民アセット財団 設立

評議員	伊藤 明雄	(宗教法人 見樹院 総代)
	枝木 美香	(NPO法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク 事務局長)
	斉藤 洋子	(江戸川子どもおんぶず 会計)
	本田 徹	(NPO法人 シェア=国際保健協力市民の会 前代表)
	ジョナサン ワッツ	(International Network of Engaged Buddhists (INEB) Honorary Adviser)
理事長	藤居 阿紀子	(NPO法人 ほっとコミュニティえどがわ 理事/事務局長)
副理事長	奥田 裕之	(未来バンク 理事)
	奈良 由貴	(NPO法人 足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 代表)
専務理事	大河内 秀人	(宗教法人 寿光院、宗教法人 見樹院 住職)
理 事	青木 沙織	(江戸川子どもおんぶず 事務局長)
	井筒 千春	(合同会社 ロドリコ 代表)
	上村 英明	(市民外交センター 顧問)
	服部 広隆	(NPO法人 福岡すまいの会 事務局長)
監 事	小池 達也	(一般社団法人 よだか総合研究所 理事)
	濱口 博史	(弁護士)

リタ 市民アセット財団の、「リタ」とは

「リタ」とは、もちろん「利他」がひとつの語源となっています。

大河内住職やNPOの皆さんが、「利他」の心を持って長く活動してきた
仏教的な意味合いを含めました。

他に、英語圏で「真珠」という意味のMargaritaという女性名の愛称形
「Rita」の意味も含めています。

サンスクリット語や古代ギリシア語でも、美しい言葉として使用されてきた
「リタ」を、私たちは宗教とは切り離れた財団の名称として名付けました。

2. リタ市民アセット財団のこれから

2026年1月22日 公益認定

公益財団法人 リタ市民アセット財団 となりました

公益財団法人とは「公益事業を主な目的としている財団法人」のことで、寄付をいただいた場合に税制上の優遇措置を受けることができます。

例えば)

- ・ 使う予定のない空き家などのアセットを、公益のためにご寄付いただきやすくなる
- ・ 相続人のいない遺産や遺贈、相続した資産の一部を「社会のため」に受け入れやすくなる
(公益財団法人へ寄附をした財産や支出した金銭は、相続税の対象とならない)

私たちは、この制度を活かして土地や建物等を市民が公益に活用できる新しい社会の仕組みをつくりたいと考えています。

私たちが行っていく事業

1) 公益を創っていくために、土地・建物を管理する事業

- ・ 土地・建物などの資産をお持ちの団体や個人から、それらを委託管理契約、サブリース契約、信託契約等で公益のために託していただく。
- ・ お預かりした資産は、NPOなどを通じて社会のために活用していく。

2) 空き家や土地、財産などを、税優遇の制度を使って寄贈いただく事業

- ・ 使用しない空き家や遺贈の一部など、税優遇を活用したご寄付の受け皿となる。
- ・ それらの資産を、現在と次の世代のために永く活用していく。
- ・ 公益のため私財を寄附した方へ、褒賞（紺綬褒章）の推薦を行う。

3) NGO大学などを通して、市民の進める公益を考えていく事業

- ・ 公益のために活動をしている市民団体、新たな社会の動き、これからの社会の姿などを考えるフォーラムや学習会の開催。

4) 資産、空き家、農地などを社会のために活用する相談事業

- ・ 関東地方の都市部を中心に、資産の公益活用のご相談を受付。

例えば：空き家を社会のために使いたい、使っていない土地や農地を人に役立てたい、
税優遇制度を活用して希望の持てる地域社会を創りたい など

皆さまへのお願い

- ・ 私たちの活動にスポンサーはなく、関係者はほぼボランティアで進めているためにこれまではコストをあまり掛けずに進めることが出来ています。
- ・ 今回、公益財団法人の認定を受けたことから、今後は活動をレベルアップして展開していきたいと考えています。

この立上げ時期を「賛助会員」と「ご寄付」で支えてくださいませんか？

賛助会 個人会員 一口 3,000円～ ※何口でも可

賛助会 団体会員 一口10,000円～ ※何口でも可

[ご寄付・賛助会員のお願い - リタ市民アセット財団](#)

リタ市民アセット財団は、国や地方自治体、企業や市場と
少し違った、長く持続可能で、未来に希望をもつことのできる
新しい仕組みを、民間につくりたいと考えています



これからも よろしくお願ひいたします



団体HP : <https://rita.or.jp>

お問合せ先 : 公益財団法人 リタ 市民アセット財団

住 所 : 東京都江戸川区松江1-11-13 (松江の家)

メー ル : info@rita.or.jp

電 話 : 03-5879-5459